

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	和が家独自の理念、グループホームの基本方針、各ユニットのコンセプトを作り上げている。	○	職員が同じ目標に向かって運営理念をこれからはしっかり掲げ共有していきたい。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝の申し送り時間に毎日理念を唱和している。申し送りの時間やミーティングの際に「日々のケアの中で具体的にどうしていくか？」話し合っている。	○	新職員は、理念をなかなか覚えられず毎日唱和することで定着させて共有できるようにしたい。次にその為には具体的にどうやるのかを話し合っていきたい。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	重要事項説明書に運営の方針を明示しているほか、和が家独自の運営理念を玄関ホールに掲示している。また、入居時はもちろん入居後も機会あるごとに家族や入居者に話しをしている。	○	和が家便りや家族向けのお便りも定期的に発行して家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員とご利用者様と近所を散歩し顔なじみになっている。庭のきんかんやお花をもらったりお互いに声をかけあったりお話をさせてもらっています。	○	挨拶など近所の方も「ホームの人だ」という感じていてくださる。「和が家というホームがある」という事を知ってもらい気軽に立ち寄ってもらえるよう関わっていきたい。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等あれば出来る限り参加し、地域の方々と交流している。	○	ご利用者様と共に行事等に参加し地域の方々と交流を深めていきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ特に取り組んでいない	○	町内会に入ったので、これから地域で役立つことがあれば少しずつ取り組んでいきたい。「命をつなぐネットワーク」の傾聴ボランティア等の活用も検討中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価表を分担しそれぞれが評価の意義を理解、考えている。評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○	外部評価後は、注意点、問題点をあげ具体的にどうすれば改善できるかを皆で話し合っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行いホームでの取り組みを報告している。	○	家族や地域の方々より意見や質問を受けより良いサービスを向上できるよう努力している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の包括支援センターの担当者を中心にグループホーム事業者同士で相談や情報交換を行っている。	○	これからも地域で孤立しないように相談や情報交換をしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、相談があれば説明し、又相談機関を紹介している。市の主催する研修にも参加している。	○	成年後見人制度については、職員も理解を深めるように研修やカンファレンスを実施していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファレンスで拘束の現状と虐待防止について話し合っている。拘束のある利用者様は「身体拘束が必要であるか？しなくて良い方法はないか？」話し合い記録に残している。	○	身体拘束の現状とどうしたら拘束しないように出来るかを考え話し合っている。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームのパンフレット、契約書、重要事項説明書を用い、十分な説明を行っている。ご利用者様やご家族様に不安なこと、疑問はないか聞くようにしている。	○	契約時だけでなく運営推進会議や面会時など、意見を伺いできる事を常に提供していきたい。
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の言葉に耳を傾け意見を聞き、不安がたまらないようにしている。又改善できるように皆で話し合っている。	○	問題があれば改善できるように努力していきたい。御家族にも協力できる事(外出や買い物)があればお願いしている。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの様子や健康状態などは、面会時や電話にて報告、連絡している。金銭管理は、毎月の請求書や面会時に報告している。職員の異動は、運営推進会議で伝えている。	○	御家族への連絡を密に取り個々にあわせた報告を今後も続けていきたい。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の意見、苦情は報告書を書き全職員へ伝達して改善策を考え繰り返さないように努力している。	○	面会時や電話、運営推進会議において常に話を伺えるようにしている。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、主任、ホーム長、センター長へとつなぎ、伝わるようにしている。	○	新しい職員の新鮮な意見(初心)など提案する機会、場を作り大切にしていきたい。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整は、その時に応じて柔軟な対応が出来ている。行事などがある時は、人数を増やし対応している。	○	今年の始めは、人員が安定せず、職員の負担も大きく皆疲労が溜まっていた。現在は、人員も安定しつつある。
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職によりどうしても落ち着かない空気はあったと思うが利用者様へのダメージは既にいる職員に依り防止できている。	○	グループホームの基本方針にうたっている「ご利用者様と職員が共に明るく楽しい和が家」に近づけるように働きやすく利用者様へのダメージ防止に努めたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の募集採用にあたっては、性別や年齢を理由に採用から除外することが無いように努めている。採用の際には、本人の持っている個性を引き出せるように、担当業務を決めて出来る限り勤務時間の希望を聞き入れシフトを作成している。	○	職員一人一人の個性を大切にして、生き生きと勤務出来るように努力していきたい。
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	「接遇マニュアル」「人権マニュアル」を作成し、何時でも職員が見れるようにしている。又、カンファレンスの中でも接遇等の研修を行っている。	○	カンファレンス時に行う勉強会の回数を増やしていきたい。
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員については、机上研修を行い、業務については先輩職員が付き実施指導を行っている。外部研修にも参加しておりカンファレンスにて発表して研修報告書にも皆が目を通すようにしている。	○	育成については、個々のペース、能力にあわせてトレーニングしていく。
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流会があり、ホーム長が毎回参加している。情報は、カンファレンスで伝えている。	○	今以上に多くの交流を深めて行きたい。
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム長が職員の悩みやストレスの実態を認識しており何時でも相談できるようにしている。また、介護事業部責任者との面談も実施している。	○	特に新職員については、会社での人間関係も出来ておらず一人で悩みを抱え込まないように話を聞いてもらいたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人個人の3ヶ月目標、1年間の目標をカンファレンス時に発表し、向上心を持って働けるようにしている。	○	3ヶ月目標、1年間の目標に加えカンファレンス時に1ヵ月で出来たこと、出来なかったことを提出して自覚を促す。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者様の今までの生活状況や一人一人の性格などを十分に踏まえ本人に合わせた声かけや対応を行っている。	○	事前面談では、ご利用者様の全ての事を理解することは難しい。入居後もご利用者様と話す機会を多く持ち、信頼関係を深めていきたい。
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にホームの見学や、体験入所時に色々と話し合いを持つようにしている。入居後もご利用者様の生活の様子を伝えるなど電話連絡を頻回に行っている。	○	家族との連絡を密に取り家族の思いや悩みを受け止めるようにしている。御家族の方も「ホームに入れてしまった」という気持ちが最初はとても大きいと思うのでよく話を聞いて楽にしてあげたい。
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様と御家族様との会話を多く持ち「そのときに必要としている事」「そのときにできる事」を見極めてできる事はすぐに行っている。	○	職員や会社の都合に合わせるのではなく家族やご利用者様の思いに沿ったサービスを提供していきたい。
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	多くの会話をもちその中からご利用者様の得意なことや、今までの生活歴を考慮して徐々に馴染んでいくように工夫している。又、今までに馴染んでいたものをホームに持ち込んで楽しみながらしてもらっている。	○	こちらからしてもらう事を提供するだけでなく今までにされていた事を職員がよく把握して、意欲的に生活していただけるように援助していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩であり豊富な経験の持ち主である事を念頭に置いて会話をする時、様々な事を教えて頂く態度で行っている。	○	ご利用者様と職員が共に笑ったり怒ったりと心が通じ、穏やかな毎日を送って頂けるよう接していきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会時にはできるだけ会話をもてるように心がけている、	○	どの御家族様でも気軽に声をかけて下さるよう努めたい。
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間の制限は設けておらず何時でも面会が出来るようにしており、フロアで他の入居者様と一緒に、又は部屋でゆっくりと過ごして頂けるようにしている。	○	ご利用者様も御家族様の面会を楽しみにしているかたも多い。楽しい時間を気兼ねなく取れるよう支援していきたい。
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様一人一人と向き合う時間を出来るだけ持つよう心がけ話かけている。	○	業務においてついつい追われてなかなかゆっくり話が出来ない時もあるが「今日は何も話を出来なかった」と言うことが無いよう接していきたい。
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	部屋に一人でこもる事がないように出来る限りフロアで過ごしてもらえよう、ご利用者様に合った生活リハビリなどを行っている。トラブルになりそうな時もあるので職員がさりげなく中に入りフォローしている。	○	常に見守りを行う事によりご利用者様同士やご利用者様と職員が楽しく居心地のよいように努めている。
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された御家族様が立ち寄ってくださったり、入院されたご利用者様の所に職員が自発的に面会に行ったりしている。	○	入所されている普段からきちんとした対応をし、信頼を得るようこれからも御家族様と接していかなければと思っています。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の些細な会話の中から気づいた事を職員で話し合い、ご利用者様が何を望んでいるか、傾聴することを心がけている。その中で御家族様への協力が必要な時は、協力して頂けるようお願いしている。	○	ご利用者様の中には、自分の意思伝達が出来にくい方もいるので、その方にあったサインを読み取り、安心して生活していただけるように努めていきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境などは、御家族様やご利用者様に話を聞いたりして一覧表に誰でもわかるようにファイルしている。	○	入所時に十分なアセスメントを取り情報収集できるよう努める。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様の心身の変化や言動など、普段の生活の中で気づくことがあれば申し送りノートや看護日誌を用いて情報を共有できるようにしている。	○	ご利用者様のその日々により心境や体調の変化があります。その時の現状にあった支援ができるように見守りをしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する時、本人や家族の思いなどを聞き計画書の中に取り入れている。	○	担当職員一人の考えだけでなく職員全員の意見交換、話し合いを行いご利用者様に合った介護計画が作成できるようにしている。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を設けているが、その時のご利用者様の状況の変化に応じて見直しが必要な時は、変更している。	○	体調不良や入院などによりご利用者様の状況変化に応じた介護計画書を作成できるようにしています。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、生活日誌、健康管理シートに日々記録し、職員でケアを統一し、ご利用者様の戸惑いが起きないよう心がけ情報が共有できるように努めている。	○	情報の共有、記録は漏れの無いように職員努力しています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る限り要望に答えることが出来るように努力しています。	○	デイサービスの行事に参加したり等施設内での協力関係を行っています、今後も拡大していきたいです。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事に声をかけて頂いたりハーモニカのボランティア、消防訓練など協力しながら行っている。	○	今行っている事に加え、更に幅広い分野の協力の呼びかけをしていき参加していきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では、他のサービスの利用に至っていない。	○	他の地域のケアマネジャーやサービス事業者と関わりはあるが、具体的に提供するまでに至っていない。これから関係を深めていきたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議に積極的に参加している。他施設の情報や意見交換も出来ている。	○	地域包括支援センターとの関わりあいをさらに密にし、他施設の情報や意見を取り入れていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連絡を取り、本人及び御家族の意思を尊重し受診が受けられるようにしている。	○	かかりつけ医との関係は、十分築けている。さらにより良い医療提供を目指して行きたい。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医がものわすれ外来を実施している為、認知症に関する相談や質問が出来る。十分な治療が行えている。	○	今後もかかりつけ医との関係を密にし、勉強会などにも積極的に参加していきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護師との関係が築けているので気軽に相談したり聞く事が出来る。又、かかりつけ医の看護師ともコミュニケーションがとれているので相談に乗ってもらえている。	○	看護師という専門職の意見は大切なのでこれからもよりよい関係を築いていけるようにする。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中のご利用者様の生活の様子を電話で聞いたり病院を訪問するなどして情報の交換をしている。	○	職員が面会に行き現状をしっかりと見極め、ご利用者様の現状にあった対応が出来るように努力していきたい。
49	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の希望、御家族の願望などの情報は、全職員で共有している。何度も話し合うことで要望に沿えるよう努めている。	○	ターミナルケアに関して本人や家族を第一に考えかかりつけ医にアドバイスをもらいながら取り組んでいきたい。
50	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	どのように支援するのが一番よいのか、ご利用者様、御家族様が何を望んでいるのかを第一に考え全職員で話し合い、今後の変化に備えてかかりつけ医にアドバイスをもらいながら進めている。	○	かかりつけ医を主軸にしたチームケアが出来るようにしていきたい。
51	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み慣れた場所が変わるというダメージを防ぐ為に今関わっているケア関係者やご利用者様、御家族様から情報をもらえる様にしている。	○	ご利用者様の今までの生活ペースが崩れることがなく、戸惑いを最小限にする為各関係者とよく話しあいながらすすめていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護は、全職員十分に気をつけご利用者様に接しています。	○	言葉かけや対応も馴れ合いになると雑になりやすいので気をつけていきたい。記録や個人情報は、今以上に常に注意していきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活をする中でコミュニケーションをしっかりと行い、色々な活動への参加の有無などご自分で決めてもらえるように支援している。	○	各ご利用者様にあった分かり易い表現でその方の意思表示をキャッチできるように努めていきたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活ペースに添いながら過ごしやすい空間を作る努力をしている、	○	ご利用者様に様々な生活レクリエーションを提供したり一日を楽しく過ごしてもらえるようつるぎるような空間を作っていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者様の希望にあわせて月1回の訪問理美容に来てもらっている。	○	なるべく御利用者様の意向で洋服を選んでもらっている。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれのご利用者様の残存機能を使っていただけるようおかずの注ぎわけ、食器拭き、料理の下ごしらえなど、出来る事は職員と一緒にしていただいている。	○	さらに出来る範囲を広げ、自分の役割として負担にならないようにしていきたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は、御家族様に持参していただきご利用者様にあわせて楽しめるようにしている。	○	食事制限のあるご利用者様には話しをして納得していただいている。
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員がそれぞれのご利用者様の排泄パターンを把握し、失敗をしないように支援している。	○	排泄に失敗した場合でも、ご利用者様の自尊心を傷付けないよう声をかけていきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、体調に変化がないか確認後、ご利用者様に声をかけ同意の上入浴を行っている。入浴時は、体に異常がないか全身のチェックを行っている。また、ゆっくりと湯舟につかり、リラックスした所で日常での不満や不安なことなどないか伺っている。	○	入浴は「ゆっくりくつろげる楽しみ」と思っていたけようにご利用者様のペースにあわせた入浴に努めていきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者様に夜安心して休んでいただけるよう、又ご利用者様にあわせた休息時間がとれるよう支援しています。	○	体に負担なく昼夜逆転しないよう、生活ペースを提供していきたい。日中は、頭と体をしっかり起こして活動していただけるよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「今日は、○○が出来た」と、張り合いや喜びが持てるよう、生活リハビリをご利用者様別に提供していきたい。	○	出来るだけ要望に答えることが出来るよう努力、工夫していきたい。単調にならないよう職員同士話し合い、御家族様に以前されていたこと等を伺い楽しく過ごしていただきたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様が管理、持参されている方もおられるがなかなか買い物に行けないのが現状です。	○	職員の買い物が無くなり業者が納品している。ご利用者様の体調を確認し買い物や他の生活リハビリなどを充実できるようにしていく事が今の課題です。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者様のその日の身体状況に合わせて近くの散歩やゴミ捨て、ベランダに出て外の空気を感じてもらっています。	○	もう少し暖かくなれば、職員で上手く外出できる時間を作りたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者様によっては、御家族様と外出され楽しまれている方もいらっしゃいます。地域の行事などなるべく参加して楽しい時間をすごせるよう支援しています。	○	職員だけでなく、御家族様にも協力をお願いし支援していただいているのでとても感謝しています。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の要望があればすぐに電話でお話が出来ます。	○	ご利用者様に「何時でも家族の声が聞ける」という安心感を持っていただけるよう御家族様と職員、これからもコミュニケーションをとり家族様にも安心してもらいたい。
66	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族の方や友人、知人が来所されたときは、気兼ねなくすごしてもらえるよう支援している。フロアやご利用者様の居室で楽しく過ごされています。	○	御家族様以外でも友人、知人が気軽に立ち寄っていただけるような空間を心がけていきたいです。行事にお誘いし楽しい時間をたくさん考え、作っていくよう努力していきたいです。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	御家族様が安全の為ご利用者様の要望があれば2点ベッド柵などを使用している。それ以外は、身体拘束をしないようケアに取り組んでいる。	○	全ての身体拘束ゼロとは、安全面を考えた時出来ないが、職員同士良い案はないか話し合い、ゼロに近づけるようこれからも努力、工夫していきたい。
68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームは二階にあり窓から出るなどすると危険なので鍵をかけている。新しいご利用者様では、離苑されようとする方もいらっしゃいますので、見守りを強化しながらブザーやその外で工夫をしています。	○	現状は、鍵を使用していますがどうすれば鍵をかけなく、安全にすごしていただけるか皆で工夫し環境を整えていきたいと思っている。
69	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者様のプライバシーを守りながら、日中も居室におられる時は時々声をかけ安全確認を実施。夜間帯でも最低1時間に1回の巡視を行い安全確保に努めている。	○	居室内にこもりきりになるとどうしても見守りが不十分になってしまいます。なるべく日中は、皆様と話しをしたり楽しく過ごすことが出来るよう工夫していきたいです。
70	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様のくせをよく理解し、物を全て無くすのではなく、その方にあった見守りをしています。一人の職員でなく声をかけながら皆でご利用者様の見守りをしています。	○	職員同士、常に声かけながら、ご利用者様の能力に応じた活動が出来るようにチームケアで支援していき危険を防ぎたい。
71	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤飲、誤薬がないよう注意を払い事故防止に取り組んでいる。また、合同会議で危険と思われる事例に関しては皆で話し合い勉強会を行っている。	○	事故発生時、職員もパニックにならないように緊急時マニュアルを頭に入れておくようにする。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議の時など応急手当や急変時の対応(初期対応)の訓練を行っている。また、事故発生時に備え緊急時マニュアルを作成しすぐに閲覧できるようにしており詳しい手順も記載している、	○	全職員が緊急時に対応できる様に知識を身につける努力をしていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の避難経路を確保し緊急時に職員が誘導できるようにしている。日頃より地域の人々への協力依頼が未だ出来ていない為、今後協力が得られるよう働きかけたい。	○	定期的に避難訓練を行い災害に備えている。また、日頃より地域の方との関わりを深く持ち災害時など協力が得られるより良い関係を築き話し合いを行いたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	常に御家族様と連絡を取り、現在の状況や、起こり得るリスクを伝え対応策を十分話し合っている。	○	職員間においてもリスクを補える様十分話し合いをしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックに加え、ご利用者様の普段の様子をよく観察しておき、体調の変化、顔色など異変の早期発見に努めている。また、それらを職員間で申し送りし情報を共有している、	○	水分量、体温、トイレ回数、食事量、尿色、尿臭など日頃から観察を行い小さな異変にも気づける様努めたい。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や内容、医師の指示については、その都度、健康管理シートに記載している。毎週薬チェックシートを作成、更新を行い全職員に配布し内容の理解に努めている。	○	当日のリーダーが薬セットを行い夜勤者が確認を行い翌日出勤の早出職員がチェックシートで確認を行う事でミスを防ぐよう努めている。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から食事量や水分量、排泄チェックを把握しており、食事栄養士作成の元に便通のよい食材を多く採り入れている。。	○	適度な運動も必要なので、朝のラジオ体操や各ご利用者様に合わせた歩行運動など楽しくしていただけるように工夫していきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、ご利用者様に声かけをし出来る所はご自分で口腔ケアを行っている。出来ない部分に関しては職員が支援している。義歯に関しては市販の義歯洗浄剤を使用。	○	一人一人の口腔管理や特徴を十分理解して清潔保持に取り組んでいきたい。
79	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事は、常に一人一人の摂取量を記録し確認する。また、なかなか水分摂取が出来ないご利用者様においては出来るだけ飲んでいただけるよう工夫に努めている。	○	水分制限や食事制限があるご利用者様は、それぞれに合わせて記録しながら確認している。特に水分が入らないご利用者様においてはその方にあった摂取方法を工夫していきたい。
80	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご利用者様、職員共にインフルエンザの予防接種を受けています。他の感染症についても感染症マニュアルを作成しており、マニュアルに沿った予防や対応も行っている。	○	様々な感染症にも一人一人が防ぐという意識を持ち日常の身近な事から取り掛かって行きたい。身体、寝具、衣類など常に清潔保持出来る様気を配って行きたい。
81	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	月に一度、栄養士に依る台所衛生チェックを実施しており常に清潔に管理できている。	○	食材の保存も油断せずに、職員がしっかりと意識を持ちながら安全な食事を提供できるよう努めて行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	フロアに入ってくるときは、必ずインターフォンで相手様を確認してから中に入っていただくようにし、安全配慮をしています。季節の置物などで家庭のように親しみやすい工夫をしている。	○	ご利用者様の出入りには必ず職員や御家族が一緒であることを確認して離苑などにも注意している。
83	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間なので皆様が気持ちよく使用していただけるようにして清潔で安心して過ごせる様に努めている。ご利用者様と季節のものを飾りつけたり、楽しみながら空間作りをしています。共同の空間のトイレ照明も自動点灯を使用しています。	○	ご利用者様の意見も取り混ぜながらこれからも空間作りをしていきたいです。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにおいても、自分の席で編み物をされたりソファでうたた寝をしたり、お話をしたり自由に思い思いに過ごせる様職員は努めています。	○	「居心地の良い居場所を作る」という思いを常に抱いて支援していきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の思い思いの部屋作りをされていらっしゃると思います。昔の写真や大切な人の写真を飾ったり、今まで使われていた愛着のある品物が飾られています。	○	ご利用者様の了解を得て職員がお手伝いさせてもらっています。また、危険なところや、物が置かれていないか、綺麗にされているか気を使っています。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	お部屋にはエアコン、加湿器がありご利用者様に合わせた温度、湿度に気をつけるようにしています。朝の掃除の際には換気に気をつけています。	○	今の時期は、窓を開けるととても寒いですが「掃除の時間です、空気を入れ替えます」と「寒いね～」と話されながら掃除をしています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには手すり、浴室には滑り止めマットを使用するなど安全に生活が出来る様工夫しています。	○	そのみに頼る事なく、ご利用者様を危険がないよう見守っていききたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かりやすく大きな文字や絵で表示したり迷っていたらさりげなく声をかけています。	○	ご利用者様ごとに理解できることが違います。その方にあった分かり易い環境作りを工夫していきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	和が家の周囲は、田んぼがあったり足立山が見えたり、田舎の落ち着いた景色もたくさんあります。朝、お日様に向かって手を合わせる方や日光浴を楽しみにされている方等思い思いに過ごされています。	○	中には、帰宅願望がある方もいらっしゃいます。気晴らしにベランダで外の空気を吸われたり、少し暖かくなれば広いベランダで皆様体操をされたりしています。今後も続けていきたいと思います。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様の残存能力を活かし、それぞれの方にあった生活リハビリを実践しています。幅広いものを提供していけるよう努力中です。(編み物、ぬり絵、計算、読み書き、習字、ボール遊び等)日々の生活を楽しく、そして健康管理や安全面に於いては特に配慮して過ごして頂けるように努力しています。